

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 2 部門第 4 区分
【発行日】令和 4 年 9 月 9 日(2022.9.9)

【国際公開番号】WO2022/014566
【出願番号】特願 2022-536370(P2022-536370)

【国際特許分類】

B 3 2 B 9/00(2006.01)

G 0 2 B 1/18(2015.01)

G 0 2 B 1/113(2015.01)

10

【F I】

B 3 2 B 9/00 Z

G 0 2 B 1/18

G 0 2 B 1/113

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 7 月 7 日(2022.7.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

基材と、防汚層とを厚み方向一方側に向かって順に備え、
前記防汚層が、パーフルオロポリエーテル基を有するアルコキシシラン化合物を含み、
微小角入射 X 線回折法における面外回折（アウトオブプレーン）測定において、ラメラ構造に帰属される波数 $2 \text{ nm}^{-1} \sim 10 \text{ nm}^{-1}$ にピークを有し、
前記基材の厚みが、 $1 \mu\text{m}$ 以上 $200 \mu\text{m}$ 以下であり、

下記試験により測定される前記防汚層の積分強度比が、 0.0020 以下であることを特徴とする、積層体。 30

試験：防汚層について、微小角入射 X 線回折法における面内回折（インプレーン）測定により、ラメラ構造に帰属されるピークの積分強度（インプレーン回折積分強度）を測定する。別途、防汚層について、微小角入射 X 線回折法における面外回折（アウトオブプレーン）測定により、ラメラ構造に帰属されるピークの積分強度（アウトオブプレーン回折積分強度）を測定する。得られたインプレーン回折積分強度およびアウトオブプレーン回折積分強度に基づき、アウトオブプレーン回折積分強度に対するインプレーン回折積分強度の積分強度比（インプレーン回折積分強度 / アウトオブプレーン回折積分強度）を算出する。

【請求項 2】

40

前記基材および前記防汚層の間に、さらに、密着層を備えることを特徴とする、請求項 1 に記載の積層体。

【請求項 3】

前記密着層は、二酸化ケイ素を含む層であることを特徴とする、請求項 2 に記載の積層体。

【請求項 4】

前記防汚層は、パーフルオロポリエーテル基を有するアルコキシシラン化合物が、シロキサン結合を介して、前記密着層に形成されていることを特徴とする、請求項 3 に記載の積層体。

【請求項 5】

50

前記基材と前記密着層との間に、さらに、プライマー層を備えることを特徴とする、請求項 3 または 4 に記載の積層体。

【請求項 6】

前記基材および前記防汚層の間に、さらに、反射防止層を備えることを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の積層体。

【請求項 7】

前記反射防止層は、互いに異なる屈折率を有する 2 以上の層からなることを特徴とする、請求項 6 に記載の積層体。

【請求項 8】

前記反射防止層は、金属、金属酸化物、金属窒化物からなる群から選択される 1 種を含むことを特徴とする、請求項 7 に記載の積層体。 10

【請求項 9】

前記反射防止層の厚み方向一方向は、二酸化ケイ素を含む層であることを特徴とする、請求項 7 または請求項 8 に記載の積層体。

【請求項 10】

前記基材および前記反射防止層の間に、さらに、プライマー層を備えることを特徴とする、請求項 6 ～ 9 のいずれか一つに記載の積層体。

20

30

40

50